

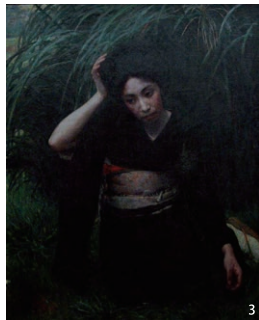
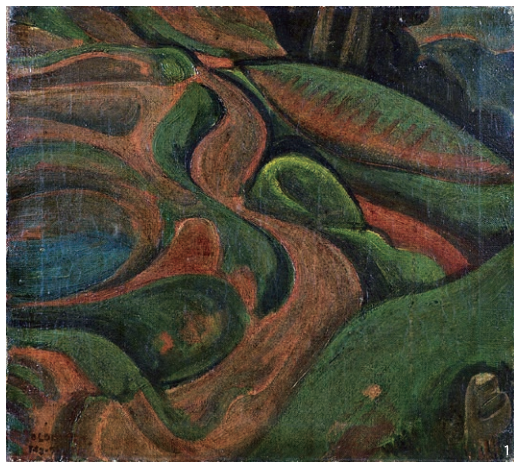
# 木の間通信

## 「萬鉄五郎という存在」展

—萬鉄五郎とその周辺の作家たち—

2015年 4月11日(土) ~ 6月28日(日)

●会場：萬鉄五郎記念美術館



萬鉄五郎記念美術館は1984年の開館以来、萬鉄五郎作品にとどまらず、その周辺作家の作品を広く収集してきました。このたび萬鉄五郎とその同時代の画家たちの作品により、明治末から昭和初期にかけての日本近代絵画の状況と、岩手という地での地方美術がどうであったのかを概観する展覧会を開催します。萬鉄五郎とその周辺の中央の画家たち、そして岩手の画家の表現から、あらためて萬鉄五郎という日本を代表する画家の位置を再確認したいと思います。

- 休館日 月曜日(5/4は開館し5/7休館します)
- 開館時間 8:30 ~ 17:00(入館は16:30まで)
- 入館料 一般400円、高校・大学生250円、小・中学生150円 \*20名以上の団体50円引

1. 萬鉄五郎《丘のみち》1918(大正7)年/油彩・画布
2. 萬鉄五郎《裸婦》1914(大正3)年/油彩・画布
3. 五味清吉《秋草》1915(大正4)年/油彩・画布

# 土澤アートクラフトフェア

(旧名：アート&クラフト《土澤》マーケット)

2015年 5月3日(祝) 4日(祝) 10:00～16:00

●会場 萬鉄五郎記念美術館前庭&土澤商店街

アート作品・クラフト作品などクリエイターのお店250店が大集合！

●申込・問合せ先 土澤アートクラフトフェア事務局

花巻市東和町土沢5-405「キクヤ薬局」内 電話：0198-42-2632 メール：tuchizawa\_market@yahoo.co.jp  
ホームページ：http://artsuchizawa.com/ ブログ：http://arttsuchizawa.blog.fc2.com/



## 第35回 萬鉄五郎祭

《式典》 2015年 5月3日(祝) 14:00～14:30 ●会場 土沢幼稚園講堂(美術館隣地)

画家・萬鉄五郎の命日にあたる5月1日にあわせ、ご遺族や全国の萬ファンを交え、その画業を偲びます。

●関連行事

《茶会》 日時 5月4日(祝) 10:00～16:00  
実施団体/東和町茶道研究会

●会場 萬鉄五郎記念美術館前

《写生会》 日時 4月26日(日) 9:00～12:00

●会場 萬鉄五郎記念美術館

参加費/500円 持ち物/鉛筆・絵の具・画板・敷き物(画用紙は配布します)

《写生会展示会》 会期 4月27日(月)～5月10日(日) 9:00～17:00

会場 花巻市立東和図書館ロビー(花巻市東和町安俵6-90)

●申込・問合せ先 鉄人会 花巻市東和町土沢5-135「萬鉄五郎記念美術館」内 電話：0198-42-4402

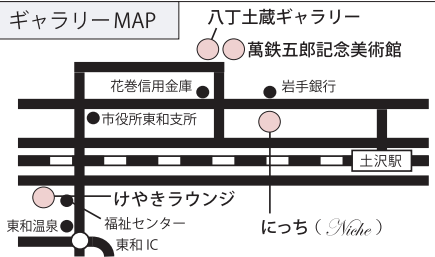
### 喫茶「八丁土蔵」



萬鉄五郎の本家「八丁」にあった土蔵を移築復元した、ギャラリーと喫茶スペースです。自慢のオリジナルコーヒー「蔵」「八丁」を、ぜひ一度ご賞味ください。 営業時間：10:00～16:00 (lo.15:30)

## 美術の街「土沢」 ギャラリー情報

萬鉄五郎記念美術館とあわせて、「美術の街」土沢めぐりをしてみてはいかがでしょうか。



### 萬鉄五郎記念美術館 八丁土蔵 ギャラリー

花巻市東和町土沢 5-135  
萬鉄五郎記念美術館内  
9:00-16:30 月曜休(祝日の場合は翌日) 入場無料

### 田村晴樹 展

iwate コンテンポラリーアート

4月11日(土)  
～ 6月28日(日)

盛岡在住の版画家によるユーモラスで不思議な世界



### Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俵6-90 東和図書館内 tel.0198-42-3205  
10:30～19:00 (最終日は16:00まで) 入場無料

### 鎌田美幸 小品展

3月1日(日)～ 3月31日(火)

花巻の女流作家、身近なものが美しい。



### 五十嵐彰 作品展

=樹下の風景画展=

4月1日(日)～ 4月30日(水)

ケヤキの会事務所長2年ぶりの開催です。静物的風景画。



世界の雑貨とギャラリー

### にっち Niche

花巻市東和町土沢8-115  
こっぼら土澤1階  
11:00～17:00  
火曜定休 入場無料

### 絵本の始まり 展

3月18日(水)～ 3月30日(月)

子どもから大人まで愛される絵本。コルデコットの木版画をはじめ、クレイン、グリーナウェイなど、100年以上前の絵本を展示。



## 連作

モネが、近代性の象徴として駅を題材に、1877年『サン＝ラザール駅』を描いた。1点だけのつもりが、刻々と変化する蒸気や煙の表情を追い求めているうちに、とうとう12点も描いた。モネの連作の始まりで、同年開催の第3回印象派展に7点出品された。

やがて晩年にかけて、モネ作品に、同一モチーフによる「連作」が多く登場してくる。最初が、モネの終の棲家となったジヴェルニーの畑のなかの『積藁』をモチーフにしたシリーズである。描いているうちに光によって微妙に変化する積藁の表情を、色別にとらえ描き分けた作品。その15点を、デュラン・リユエル画廊の個展で発表、同一主題、同一構図の作品を展示する「連作」という極めて新しい形式が注目された。そして、後にカンディンスキーがその一点を、モスクワで開かれたフランス

絵画展で見て衝撃を受け、色彩と形だけで構成された絵画に目覚め、抽象画を生み出すきっかけとなった。

続くモネの連作のテーマは、ジヴェルニー上流の川沿いの土地に立つ『ポプラ並木』のシリーズで20点以上描いた。その後ゴシック大聖堂のフアサードの連作『ルーアンの大聖堂』に取り組んだ。現地に部屋を借りて、1892年から3年を費やして30点を制作した。その制作年をすべて1894年とし、連作全体で一つの大きな作品として構想された。20世紀に入って連作という表現形式は、ごく一般的になったが、その創始者がモネである。

そして最晩年は『睡蓮』の連作に取り組み、オランジュリー美術館の全長90メートルに及ぶ壁面を埋める大『睡蓮』に結実した。

日本の近代絵画を切り開いた萬鉄五郎は、東京美術学校を卒業した1912年から土沢に一時帰省した4年間にかけて、多くの「自画像」を連作した。ゴッホの影響を受けた卒業記念の『自画像』から、新印象派スラー

を踏襲した『点描風の自画像』、ムンクあるいは表現派風の『雲のある自画像』、マチスを研究した『赤マントの自画像』や未来派などの洗礼を受けた『赤い眼の自画像』など、印象派以後次々と表現を変革した西洋絵画の研究過程をたどるように自分自身を題材に追求した。土沢時代には徹底してキュビズムの表現による『自画像』を多く描いた。これら一連の萬の『自画像』は「連作」といえる。ゴッホもまた『自画像』を「連作」した画家である。彼のわずか10年に及ぶ画業のなかで、自画像を描いた時代は、パリと南仏アルルの3年間だけで、その短い時期に40点を超える自画像を描いて自分と向き合った。

萬鉄五郎記念美術館長 中村光紀



萬鉄五郎《赤マントの自画像》1912年  
／油彩・画布／個人蔵

萬鉄五郎記念美術館 岩手県花巻市東和町土沢 5-135 Tel.0198-42-4402 8:30am. ~ 5:00pm.

yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/503/p004177.html> 月曜休館（祝日の場合その翌日）

発行人／東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明